

算命学中庸

【初年】 5 2 回目

5 2 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【十二大従星指数】 01~16 頁
 【エネルギー論】 17~37 頁

・【初年】 5 2 回目【十二大従星指数】 01

□ 十二大従星指数（じゅうにだいじゅうせいりしすう）

【強星＝強い星】 【中星＝中位の星】 【弱星＝弱い星】 と
いうように、十二大従星は3つの強さに分けていました。

1 番強い星は【天将星 12】と習いました。

具体的には2番目に強いのはこの星、3番目に強いのはこの星というように、各星がもっているエネルギーの強さは決まっています。

『十二大従星表』

- ① 日干から年支を見て 第三従星
- ② 日干から月支を見て 第二従星
- ③ 日干から日支を見て 第一従星



十二大従星表

癸	壬	辛	庚	己	戊	丁	丙	乙	甲	日干 星
巳	午	寅	卯	亥	子	亥	子	申	酉	天報星
辰	未	丑	辰	戌	丑	戌	丑	未	戌	天印星
卯	申	子	巳	酉	寅	酉	寅	午	亥	天貴星
寅	酉	亥	午	申	卯	申	卯	巳	子	天恍星
丑	戌	戌	未	未	辰	未	辰	辰	丑	天南星
子	亥	酉	申	午	巳	午	巳	卯	寅	天禄星
亥	子	申	酉	巳	午	巳	午	寅	卯	天将星
戌	丑	未	戌	辰	未	辰	未	丑	辰	天堂星
酉	寅	午	亥	卯	申	卯	申	子	巳	天胡星
申	卯	巳	子	寅	酉	寅	酉	亥	午	天極星
未	辰	辰	丑	丑	戌	丑	戌	戌	未	天庫星
午	巳	卯	寅	子	亥	子	亥	酉	申	天馳星

参照⇒【初年】 40 回目 【十二大従星力学①】 02 とおなじ表です。

『十二大従星表』に記載されている『各星のエネルギー』

『天報星』	胎児の星	3点
『天印星』	赤子の星	6点
『天貴星』	児童の星	9点
『天恍星』	少年の星	7点
『天南星』	青年の星	10点
『天禄星』	壮年の星	11点
『天将星』	家長の星	12点
『天堂星』	老人の星	8点
『天胡星』	病人の星	4点
『天極星』	死人の星	2点
『天庫星』	入墓の星	5点

エネルギー値は点数であらわします

参照は【初年】 40 回目 【十二大従星力学①】 21 とおなじです。

十二大従星の強弱を点数で表しています。

各星の点数は占いでつかっていくようになります。

十二大従星（12 個の従星）の点数は、各星に備わっているエネルギーの強弱を意味します。

エネルギーの強弱は 1～12 までの数字で表します。

十二大従星はエネルギーの強さを意味するものである



各星のエネルギーを **数字** で表示することができる

いままでの勉強では『十二大従星』を身強・身弱とかで分類していました。これからはそれぞれの星がもつエネルギーの強さを数字で表した『十二大従星指数』をつかう技法が出てきます。

勉強がもっと先に進みますと、[たとえば] その人物の財運を数字であらわす。

一生の財運の推移を数字でみるようにもなります。

5 2 回目【十二大従星指数】ここでの勉強は、その見方の基本を学びます。いずれ十二大従星の点数をつかった応用の技法が出てきます。

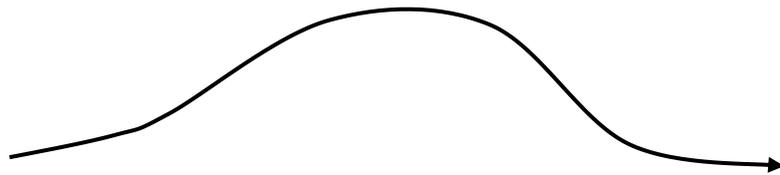
⇒ 『十二大従星』に与えられた（1点～12点）の点数
が決まった^{いきさつ}経緯を説明していきます。

参考：経緯〔物事がそこに至るまでの筋道〕

参考：指数〔同類の事物をつかい、高低の推移や段階的異なりを示したもの〕

⇒ 『人生を一つの山』にたとえます。

このような姿です…… 宿命（1）山



この山を「生まれてから死ぬまで」と考えます。

生まれてから……小学生・中学生・高校生へだんだん
成長して、心身ともに強く^{たくま}逞しくなって、大人として
一番チカラを発揮できる時代がやってきます。

つぎには晩年期へ向かって、少しずつ体力も衰えてき
て、肉体は弱くなり、死への^{たびじ}旅路をむかえます。

人生を一つの山にたとえて考えると、人間の人生だけ
ではなくて、どのような物事にも、必ず、このような
山の姿ができあがるはずです。

太陽も……朝、東から昇ってきたときは、陽の光りも弱々しく、だんだんとお昼に近づくに連れて、陽射しも強くなり、その頂点を過ぎると、西へ傾^{かたむ}いて光りは弱くなり、地平のかなたへ沈んでいきます。

これは植物でも、最初の芽がでたときはちっちゃな、可愛^{かわい}らしくやわらかな草みたいな状態です。

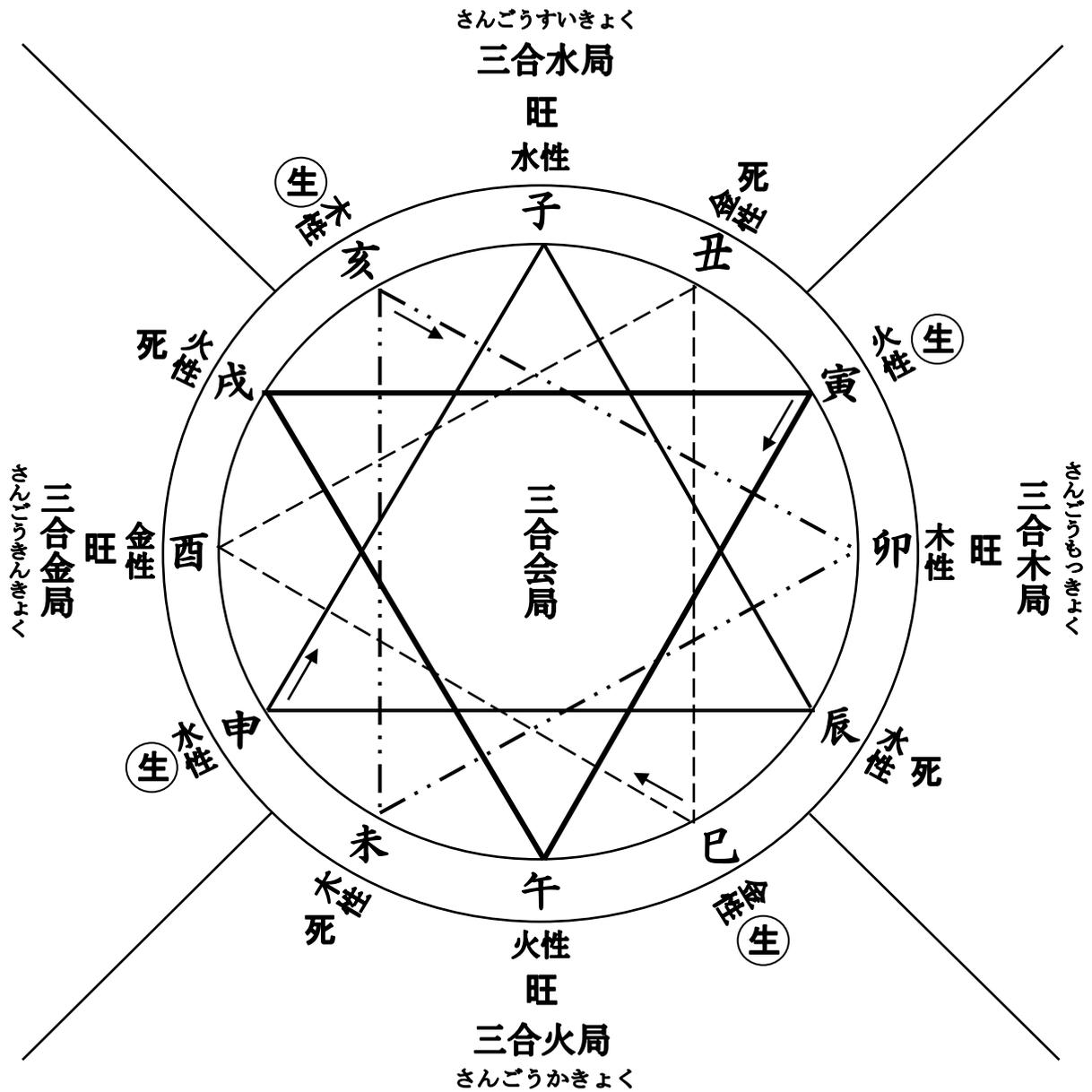
それが成長して少しずつ大きくなり、樹木なら大木になって聳^{そび}え立ちます。それも絶頂^{ぜっちょう}を越^こえると、だんだんチカラが衰えて枯れていく、そういう時代がやってきます。 参考：絶頂〔ものごとの登りつめたところ。頂点。〕

宿命（1）山 のように、人間の人生を山にたとえたのです。

さらに……人間の一生には、三つの山があるとして、「生旺死^{せいおうし}」と考えているわけです。

人生には三つの山がある

➡ 「三合会局」の『生 旺 死』
始 中心 終



ばんしょう せいおうし
万象は「生旺死」で成り立っています。

あらゆる物事は「はじめ・中心・終わり」で成り立っているのです。

万象万物には、始まりと、中心と、終わりがあって、この3つはそれぞれ関連しあって、つながりをもっているという考え方です。

⇒ 十二大従星も三合会局法の組み合わせに関係しています。
ということで……三合会局法の組み合わせを、十二大従星であらわすと『生・天貴星』『旺・天将星』『死・天庫星』の組み合わせになるわけです。48回目【地時空間】40ページで勉強しました。

始まりのグループの頂点は【生・天^{てんきせい}貴星】 始まりの頂点

中心のグループの頂点は【旺・天^{てんしょうせい}将星】 中心の頂点

終わりのグループの頂点は【死・天^{てんくらせい}庫星】 終わりの頂点

正式名称は天庫星（てんこせい）

十二支盤で正三角形を書くと、必ずそれは三合会局の組み合わせになるわけです。

それを星に直すと、天貴星・天将星・天庫星になります。

人間の意識が始まる星（物心がつく星）は【天貴星】です。

この世の頂点である【天将星】です。

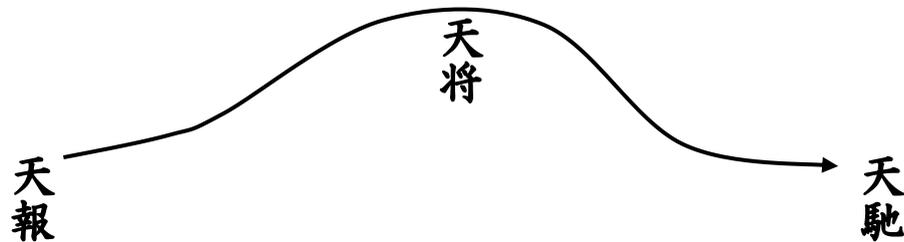
魂があのに成仏する【天庫星】です。

意識の始まり、意識の中心、意識の終わり、このように考えることもできるわけです。

人生を一つの山にたとえまして、さらに「生 旺 死」の三つの山、そして3つのグループに分けられます。始めのグループ、中心のグループ、終わりのグループ、この2つの考え方を組み合わせて、十二大従星の点数が決まったのです。

おおざっぱ
大雑把に『人生は一つの大きな山』といたしました。

宿命（2）人生



人生の始まりは、胎児のたいじ【天報星】から始まって、赤ん坊・児童・少年と成長していくにしたがって、だんだん強くなり、天将星がこの世の頂点、人生で一番チカラを発揮できるとおもわれる時代はてんしょうせい【天将星】で、天将星を過ぎると、老人の星てんどうせい【天堂星】とか、病人の星てんゆめせい【天胡星】になり、だんだん衰えて、最後はあの世へ行き着いて人生が終わります。

1 番強い星が『天将星』で、十二大従星は 12 個ありますから、天将星の点数を⑫点と決めたのです。

宿命（3）人生



強い星⑫点から、順番に弱くなるに従って、①点までの点数が決められました。

宿命（4）人生



いままで学んだなかで……、

てんなんせい せいねん てんろくせい そうねん てんしょうせい かちょう
【天南星=青年】 【天禄星=壮年】 【天将星=家長】 という

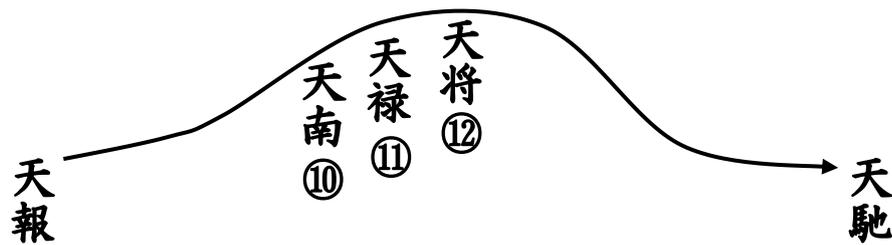
これら 3 つは大人の時代の星として、チカラを発揮できます。特にエネルギーが強い星（身強の星）です。

〔天南星^{てんなんせい}⑩点〕 〔天禄星^{てんろくせい}⑪点〕 〔天将星^{てんしょうせい}⑫点〕 これら 3 星

は、頂点に行くに従って、少しずつ強くなりますから、

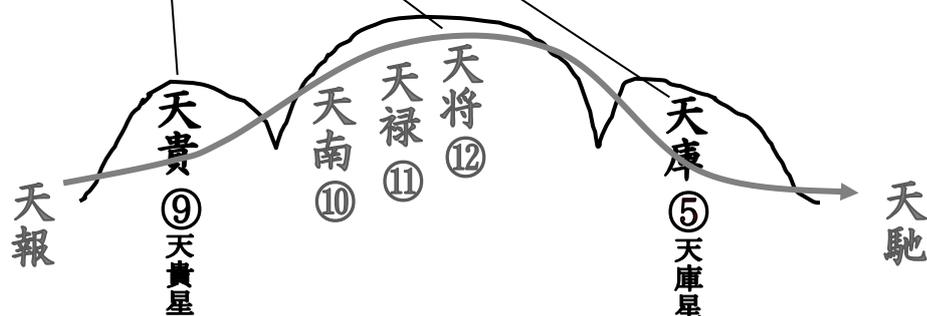
宿命 (5) 人生 の順番で点数が決められました。

宿命 (5) 人生



宿命 (5) 人生 の図に加えて……人生には始まりのグループ、中心のグループ、終りのグループ、これら 3 つの山の頂点に天貴星・天将星・天庫星という三合会局の考え方を組み合わせると……「生 旺 死」という 3 つが重なります。

宿命 (6) 人生



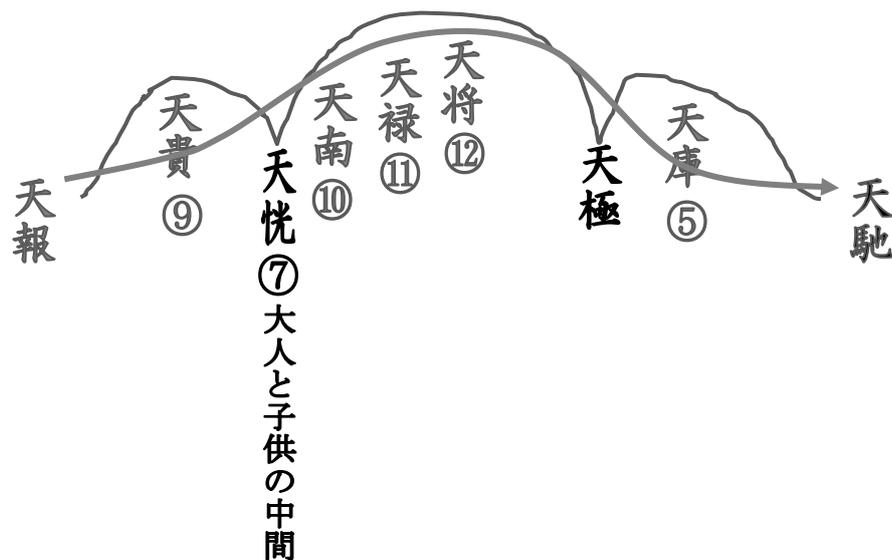
最初の始まりのグループの頂点は 〔天貴星⑨点〕

真ん中のグループの頂点は 〔天将星⑫点〕

最後のグループの頂点は 〔天庫星⑤点〕

人生には3つの山があると言っていますから、3つの山があるということは、山と山のあいだには谷になっている場所があります。谷になる場所が2つできます。谷になる場所は、前後の星より点数が低くならないといけません。そうしますと……順番で、天貴星と天南星の間の谷は【天恍星⑦点の少年】です。中心のグループと終りのグループの間の谷は【天極星②点の死人】

宿命（7）人生



ふつうに考えると『胎児から始まり、赤ん坊・児童・少年・青年』へと、一直線に強くなって行くようにもおもえますが、ここには谷が1つ必要になります。

丁度その谷になる場所は、^{てんぴかせい}天恍星（少年で思春期の星）です。その天恍星は大人と子供の間^{ちゅうかん}の星です。

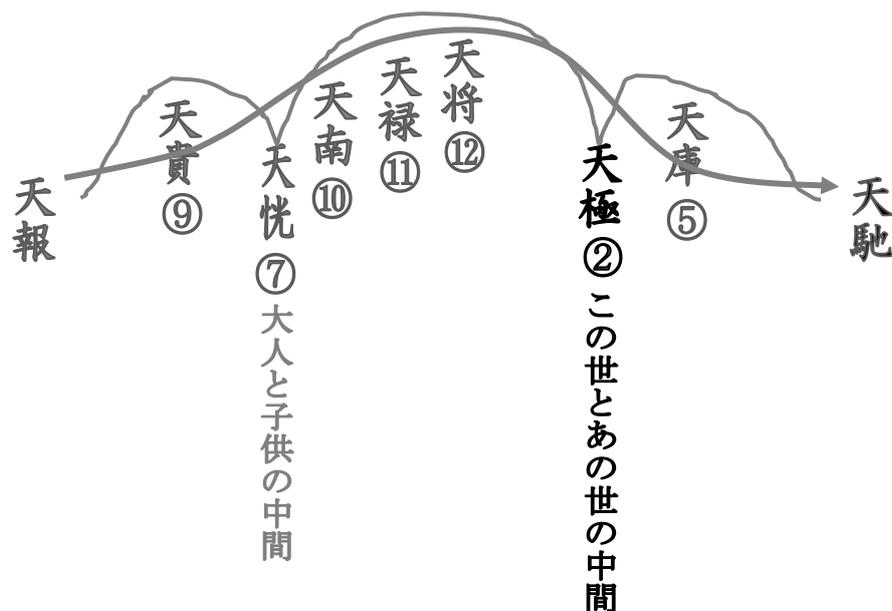
天恍星は中学生・高校生くらいの年代、大人でもない、
子供でもない、大人と子供の間ちゅうかんです。

ちゅうかん中間ということでは不安定な時代です。

それゆえ、天恍星の前の星よりも、天恍星の後の星よりも、一段低い点数に決まったのです。

てんびかせい天恍星とおなじように、てんきよくせい『天極星』も谷になるのですが、天極星は『ここの世とああの世のよ中間』の時代です。

宿命（8）人生



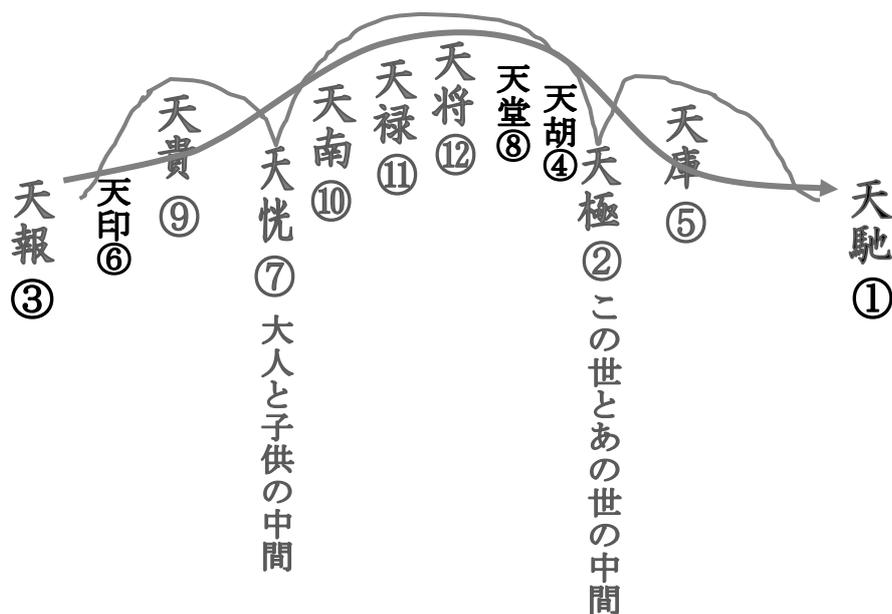
天極星は死人の星なので、『ここの世とああの世のちゅうかん中間』を

たましい ^{さまよ}魂 が彷徨っているわけです。すごく不安定な時代です。〔精神も不安定〕という意味がありました。それゆえ、前後の星よりも低い谷になるような点数に決められたのです。

生 旺 死
三合会局の天貴星・天将星・天庫星、そして天恍星と天極星の2つの谷が決まれば、後は^{あと}ズーッと上がって、ズーッと下がるという、法則に従って、星を^あ当て嵌めていけば、大体の順番が決まってしまうわけです。

【天印星⑥】 【天堂星⑧】 【天胡星④】 【天報星③】 【天馳星①】

宿命 (9) 人生



一直線に強くなって、一直線に弱くなるのではなくて……、
3つの山があって、その山の頂点を天貴星・天将星・天庫星
と決めました。山と山のあいだの谷になる場所は大人と子供
ちゅうかん
の中間という思春期の半端な時代ですから、点数が不安定
だとして、前後より弱い点数になるわけです。

おなじく、此の世と彼の世の中間の天極星も、前の星
と、後の星よりも、一段低い点数に決められました。
このような考え方に基づいて、十二大従星の序列が決
まったのです。

この点数は一つの日安と考えておいてください。
点数をつかって、さまざまな占いをする技法が出てき
ますが、数学的な点数の使い方ではないのです。

つまり、てんそうせい天馳星は①点、天将星は⑫点なので、天将星
のほうが、12倍チカラが強いと想いやすいのですが、
天馳星よりも12倍強いという意味ではないのです。

てんきょくせい天極星は②点、てんゆめせい天胡星は④点だから、天胡星は天極星
ばい
の倍強いのか……これは倍強いことではないのです。

人体図に載^のっている『十二大従星』がもつエネルギー指数をみていくわけです。

①～⑫までの指数は、あくまでも強弱をあらわしている目安なのです。

ぴったり数学的に数字上で計算するということではないのです。

そのように解釈して頂きたいのです。

続いて【エネルギー論】に進みます。

□ エネルギー論

十二大従星を『身強』『身中』『身弱』に分けました。

人体図をみたときに、身強・身中・身弱のいずれかに必ず、分類する必要があります。

このことは基本中の基本だとおもってください。

身強・身弱・身中

参考資料 (1)

強星〔天将星〕〔天禄星〕(天南星)

弱星〔天報星〕〔天胡星〕〔天極星〕〔天馳星〕

中星〔天貴星〕〔天恍星〕〔天堂星〕〔天印星〕〔天庫星〕

身強— 人体図に強星を1星、または1星以上所有するもの

身弱— 人体図に弱星を多く所有しているもの

身中— 人体図に中星を多く所有しているもの

エネルギー論には「均^{きん}エネルギー」という言葉が出てきますが、身強・身中・身弱のほうが重要です。
その補佐として、均エネルギーをつかいます。

補佐として“均エネルギー”をつかう

『身強』といっても、とても強い身強の人もいれば、身中に近い身強の人物もいます。さまざまです。

『身中』といっても、身強に近い身中の人もいれば、身弱に近い身中の人物もいるわけです。

ということは……その『身中』がどの程度の身中なのかを判断する基準が必要になります。

そのとき、平均エネルギーの数字を出して判断します。

☞ 均エネルギーとは、平均エネルギーのことです。

そのような観方をつかうこともあるわけです。

☞ そこで…… 1 つ作ります。

〔たとえば〕 人体図に、^{てんなんせい}天南星・^{てんどうせい}天堂星・^{てんそうせい}天馳星とい
う星が載^のっていたら、各星^{かくせい}の点数をだします。

天南星は⑩点、天堂星は⑧点、天馳星が①点なので、
この数字を書き込みます。

宿命 (1)

		天南 ⑩
天馳 ①		天堂 ⑧

宿命 (1) に載っている従星 3 つの数字を全部加算して
3 で割ると、平均のエネルギーがでます。

$$10 + 8 + 1 = 19$$

この 3 つの点数を足すと、19 点になります。

$$19 \div 3 = \underline{6}, 333\dots$$

均エネルギー

この合計点を 3 で割ると平均エネルギーがでます。

19 を 3 で割ると、6,3333…で割りきれません。

割りきれなくても、問題はありません。

6,3333…になっていたら、この(6,33)の数字が、この人物の平均エネルギーです。

点数は1点から12点までありますから、6,33という数字は、平均の点数としては、ちょうど真ん中くらいです。

この人物の人体図には天南星がありますから、身強の人体図です。つまりこの人物は身強です。

身強ですが、均エネルギーは(6,33)しかないわけですから、身中にちかいほうの身強です。

〔身強でもかなり弱いほうです〕となります。

実際の占いのときに……身強のなかでは、かなり弱いほうの身強だと判断するわけです。このように目安として、均エネルギーを分類して観ていきます。

参考：目安〔判断や行為の基準として、よりどころとするもの〕

そうしますと、均エネルギーが何点になるのかです。

その判断基準として、ABCという3つのグループに大きく分けます。➡

判断基準

A (1 ~ 4)

B (4 ~ 9)

C (9 ~ 12)

判断基準 A B C は (A は 1 点から 4 点) (B は 4 点から 9 点)
(C は 9 点から 12 点) となっています。

[たとえば]

均エネルギー 9 点ちょうどの場合は、B に入れてください。

均エネルギーが 9 点丁度の方は、B (4 ~ 9) に入れてください。9 点の場合は B になります。

合計点を 3 で割ったときに…… [たとえば] 9,33 となれば、
C に入れてください。(C は 9 点から 12 点)

このように A B C の判断基準に従って分類します。

9 点丁度は B です。

そして…… 9, ^{いく}幾つとなっていたら C になります。

A と B の ^{さかい}境もおなじように考えてください。

(A は 1 点から 4 点) (B は 4 点から 9 点) になっていますが、
4 点丁度は A に入れます。

4 点丁度の人物は A に入れてください。

そして…… 4, 幾つ (チョットでも半端が出たら)
B になります。

⇒ C グループの説明をします。

(C は 9 点から 12 点) となっています。

C のグループに入る人物は、身強・身中・身弱に分類しても
必ず身強になるはずです。

C グループは、最もエネルギーが強いグループなわけです。

C は (9 ~ 12) ですから、最もエネルギーが強いのです。

C は必ず身強になりますが、身強でも、C に入るとい
う人物は、それほど多くないはずです。

身強の人物であっても、点数出してみると、B に入る
人物はかなり多いのです。

参考：かなり [予測される程度の差が大きい]

そこで……つぎのように考えてください。

C（9点から12点）最もエネルギーが強いです。

Cグループの人物は、身強のなかでもすごく強い人物です。

「すごく強い」というのは ⇒ 運勢が強いという意味
ではないですよ。運勢とは別な話です。

間違えないでください。

エネルギーがすごく強い人は、たくさんのエネルギー
を与えられたわけですから、たくさんのエネルギーを
つかう役目がある。ということです。

たくさんのエネルギーをつかう役目がある

身強のなかでも、多大なエネルギーをもっていますか
ら、ほかの人よりもたくさんの物事ができるはずですよ。

他人よりも沢山の事ができる

他人よりも沢山の事ができる宿命であり、それをする
のが役目です。器の大きい宿命だと考えてよいのです。

器の大きい宿命

算命学は「宿命どおりに生きなさい」ということからすると……器が大きいですから、ふつうの生き方をしていたのでは、その器を活かすことができません。

エネルギーが強すぎるために、人生における目的意識も定まり難いという傾向があります。何をしたらよいのか、目的は何かという自覚をなかなか得られないのです

器が大きい宿命なので



ふつうの生き方では器を生かせない・活かせない

Cグループはエネルギー強過ぎるために、本人が満足する生き方を見つけにくいといえますし、見つけるのにかなりの時間を必要とします。

通常このような姿だとおもってよいのです。

参考：傾向 [その人の性質や行動がある方向へ向かうこと]

参考：通常 [ごくふつうに見られる状態]

〔たとえば〕女性ということでは、**C**グループ内に位置するような女の子がふつうのOLになっても、この器の大きさを生かしたことにはならないのです。

つかい切れないほどのエネルギーをもっているのに、通常のOLでは、エネルギーが余ってしまいます。

Cグループではなくて、広くふつうにある宿命の女性であれば、主婦になることは、宿命どおりの生き方といえるでしょう。

ところが、**C**グループの女性はとても器が大きいので、主婦やOLだと器の大きさを活かしていないために、本人自身が満足できないわけです。

Cグループに入る宿命の人は、車に例えれば、大型の貨物トラックなのです。

大型貨物トラックなのに、小さな荷物1個だけ載せて走ったら、どうなりますか……採算が取れません。

走れば走るほど赤字です。

大型貨物トラックを走らせるのであれば、沢山の荷物を積んで走らせなければ、割りが合わないはずですよ。

その意味で……**C**グループに入る男性でも女性でも、一番大変なのです。

「一番たくさんのお仕事をやりなさい」というわけですから、一番大きな役目を与えられたともいえますし、その器に合った生き方を見つけるために……長い期間

無駄な時間と労力を消費してしまうことになりやすいわけですね。

その代わりに……エネルギーをどんどん消費して、大きな物事を達成したときは、充実した人生になります。

過大なエネルギーを消化できたときには、
他人よりも充実した人生となる。

算命学は『消化』という言葉^{しょうか}を度々^{たびたび}つかいます。

「多大なエネルギーを消化できたときは、他人よりも充実した人生になります」ということです。

☞ ここでのエネルギーについては……その人物の進むべき分野については語っていません。

どのような分野でエネルギー消費すればよいのか……それは「十大主星」で観^みるのです。

分野ということは〔商売に向いている〕とか、この人は〔学者に向いている〕とか、そういう意味です。

そうしますと……Cのグループに入る人物は、それが

どのような分野であろうとも、その分野のなかで……
とにかく他人^{ひと}よりも、どんどんエネルギーをつかって
つかってという生き方をするのは、宿命どおりの姿で
すから、宿命そのものが活^いき活^いきしてきます。

ここで誤解しやすいのは、Cのグループに入る人物は
もともと体力があって、体が大きくて、丈夫だとか、
それらのことは決まっています。

そういうことは一切、なにも決まっていないのです。

Cに入る人物でも、生れつき^{からだ} 躰が弱いかも知れないの
です。

生まれつき^{からだ} 身体があまり健康ではないにしても、なん
としても……なんとか努力して、他人^{たにん}よりも沢山の事
ができる人間にならなくてははいけないのです。

^{からだ} 躰が弱ければ、人一倍働^{ひといちばい}くのは大変です。

それゆえ相当に苦労しないとはいけないはずです。

とても大変なことですが、苦難を乗り越えて行くと、
他人^{ひと}より満ち足りる人生の結実^{けっじつ}を手中^{おさ}に収めることが
できるということです。

その人が目指す分野、それは何の分野なのかわかりませんが、もし、その分野で体力が必要であれば、体力も養わないといけないわけです。

Cに属する人物の場合は、ふつう人生の後半にならないと、本当に自分が納得できる生き方には到達できないと^{おも}想ってよいのです。

Cの人物は「運勢が悪いために、人生の後半にならないと、自分が納得できる生き方には到達できない」
そういうことではないのです。

ふつうの人たちが満足できる物事（仕事）であっても、**C**の人は満足できないという意味です。

「あなたがこれから^な成し^と遂げようとしていることは、ふつうでは考えられないほど難しいことなのよ」と、まわりから言われたり、そのように想われたりするような生き方のほうが宿命は生きてきます。

そうすることで、本人も満足するし、そのほうが運勢も伸びてゆくのです。

つぎに…… B グループの平均エネルギーをもつ人物の説明に入ります。

⇒ B グループの説明をします。

B グループは平均エネルギー（4 点～9 点までの人）です。
9 点いくつという端数がでたら……その人物は C グループになります。C グループです。（9～12）です。

B グループのエネルギーの量というのは、社会で活躍するのに適しているエネルギーと考えてください。

（4 点から 9 点まで）の平均エネルギーをもつ人物は、社会で最も活躍しやすいエネルギーを^{そな}備えています。

言い換えれば、B グループの人物は「肉体とエネルギーのバランスが最もよく調和されている人」ということになります。

B グループの人物は、C グループに属する人のように、大量のエネルギーを消化する生活をしないで済みます。

世の中で活躍するのに適したエネルギー量を保持していますから、社会で活躍しやすいといえるのです。

Cグループの人物は、エネルギーの器が大きいわけですから、大きい分だけ他人よりも多量のエネルギーを消費しなければならないと考えています。

世の中には並外れたからだ 躰の大きな人もいますが、ふつうは人間としてのからだ の大きさは限られています。

それなのに **C**グループの場合は、エネルギー量だけが、人の2倍、3倍とあるわけですから、それを消化するためには、大変な肉体的苦勞を伴うことになります。

病弱でなくてもエネルギーを消費するのは大変なのに、生来からだ が弱ければ、消化するのは大変なことです。

◆ 政治家・小沢一郎さんは身体が弱いことで知られています。

彼は最身強ですが、病気でエネルギーを消化していると考え

ことができます。この話にはしゅごしん 守護神といみがみ 忌神が関係してきま

すので、これ以上の説明ははぶ 省きますが、エネルギーを消化するということは、病気で消化することも1つの方法です。

幼少期の子供にもいえるのですが……ここでは省きます。

Bグループの人たちは、**C**グループの人たちのように肉体を酷使しなくても（他人の何倍も働かなくても）、消費できる範囲のエネルギー量です。

Bグループの人物は、ふつうの社会生活を営むのに、適合したエネルギー量を与えられているということです。最適なエネルギーの量を保持するから「成功しやすい」とおもわれるようですがそれは別の話しです。

Bグループの人物はエネルギーの量が最適ですから、精神と肉体のバランスがピッタリと組み合わせるし、組み合わせやすいといえます。

「精神と肉体の釣り合いを、ピッタリと組み合わせやすい」というのは、人間が生きていくうえで最も適しています。生活のために仕事をするにも適しています。

人間が生存して、活動するのに適したエネルギーの量ですから、精神と肉体のバランスも取れて、無理がなく生きやすいし、生活も営みやすいと考えています。普通の人以上に苦勞しなくても、肉体を酷使しなくてもよいのです。

それゆえ、**B**グループに属する人は本当に多いです。

⇒ つぎに、**B**グループを2つのグループに分けます。

Bグループに限ってのことです。

B 1 グループ と **B 2 グループ** に分けます。

B 1 グループ 平均エネルギー量が（4点～7点）の人です。

B 2 グループ 平均エネルギー量が（7点～9点）の人です。

Bグループの全体は「社会生活に適したエネルギー量を備えています」といいました。

しかし、**B**のなかでも、エネルギー量の少ない人は、

B 1 グループ の（4点～7点）に属します。

その意味で **B 1 グループ** の人たちは、社会生活のなかで比較的エネルギーを必要としない分野に向きます。

B 1 グループ（4点～7点）の人は、エネルギーが少ないわけですから、それに見合った分野ということになります。

会社組織を〔例に挙げれば〕営業よりも事務職向きといえます。

営業では外回りより、会社に足を運んでくれた取引先

との営業に当たる部門に適しているわけです。

あるいは……工場や道路などの作業現場を考えると、実際に肉体を使う作業よりも、現場管理職、あるいは技術分野のほうがよいわけです。

〔たとえば〕立ち作業はかなりのエネルギーを消費します。その場合は技術を磨くなりして、指導的な立場になれば、自分のエネルギー量に見合った仕事ができるわけです。各種の仕事のなかで、自分のエネルギーを調節できる仕事を^{えら}選ぶとよいですね。

その意味では、自由業でもいいでしょうし、学術分野、研究関連なども適している分野と考えられます。

B 2 グループ は（7点～9点）のエネルギー量をもつ人です。エネルギーの量が多いほうに属します。

営業でも積極的な動きを必要とする外回りもできます。

工場なら実際的な生産現場、作業現場で肉体をつかう作業でもよいのです。総務職でも肉体的エネルギーを消化できるような部署が適しているといえます。

調理などの長時間の立ち作業も大丈夫です。

☞ 具体的に占うときには…… **B** グループのなかでも **B 2 グループ** に属している相談者が [どの分野の職種に向いているのか・適するのか] ということは、「十大主星」によって異なってきます。

それは人体図全体を観て判断することになります。

[たとえば] エネルギーを消化するという意味では、あまり動かないデスクワークの場合であれば、適度に運動をして、エネルギーを消化するというような方法を取るとよいでしょう。

それゆえ……。

B 1 グループ 平均エネルギー量が (4 点～7 点) の人です。

B 2 グループ 平均エネルギー量が (7 点～9 点) の人です。

それらの範囲において考えます。

仕事の内容、あるいはその人物の生活習慣を考慮して決めるとよいわけです。

⇒ 最後に A グループです。 (A は 1 点から 4 点)

A グループは (1 点～4 点) のエネルギー量に属する人物です。このグループの人たち、^{もっと}最もエネルギー量が少ない人たちです。

A グループの平均エネルギー量は (1 点～4 点) ですから、最もエネルギーの量の少ない人のグループです。

人間が生きるための、社会活動や仕事などを手際よく^{てぎわ}こなすには、これでは少ない量ともいえます。

その意味で……現実面 (時間とか肉体的) で忙しい職場や環境だと無理をすることになるかも知れません。

しかし、身弱の授業にでてきましたが、身弱は精神性に強いと学びました。

A グループは精神面に強い人ですが、精神面で人一倍の苦勞をしないと、その適性を発揮することが難しくなります。

参考：最も [程度に関して、同類のなかの一方の極にあり、それ以上 (以下)

のものがいない様子]

☞ 算命学は「強いものを鍛える」のが基本です。

Aグループの人は精神面で人一倍ひといちばいの苦勞をしないと、その適性を発揮することが難しくなります。

つまり〔現実面の苦勞が少ない世界〕とか〔時間的に追いまくられるように忙しい〕とか〔お金を儲けるために、肉体をつかって、休む間もなくうごき続ける〕といった環境には向きません。

そうしますと……精神的苦勞が多い世界であれば、独特のおもむき趣を最大限に伸ばすことができます。

精神的に多大な苦勞をすることが、本来の才能を引きだして、世の中での成功へとつながっていきます。

エネルギー量としては、学者や研究者向きといえます。精神的分野、理性的分野などはよいでしょう。

参考：人一倍〔その人の熱心さがふつうの人の二倍〕

参考：趣〔こころの在り方。こころの動き。〕

物事を感じとらえる感性の世界、それによって得られた素材を整理・統一する企画・立案などの精神機能をはたらかせる分野に適しています。

知性的に物事の本質をとらえる能力をつかう研究開発部門とかには^{てきごう}適合するでしょう。

参考：適合〔条件・状況などにうまくあてはまること〕

【初年】 5 2 回目 【十二大従星指数】 01～16 頁

【エネルギー論】 17～37 頁

終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 5 3 回目 【大運法】